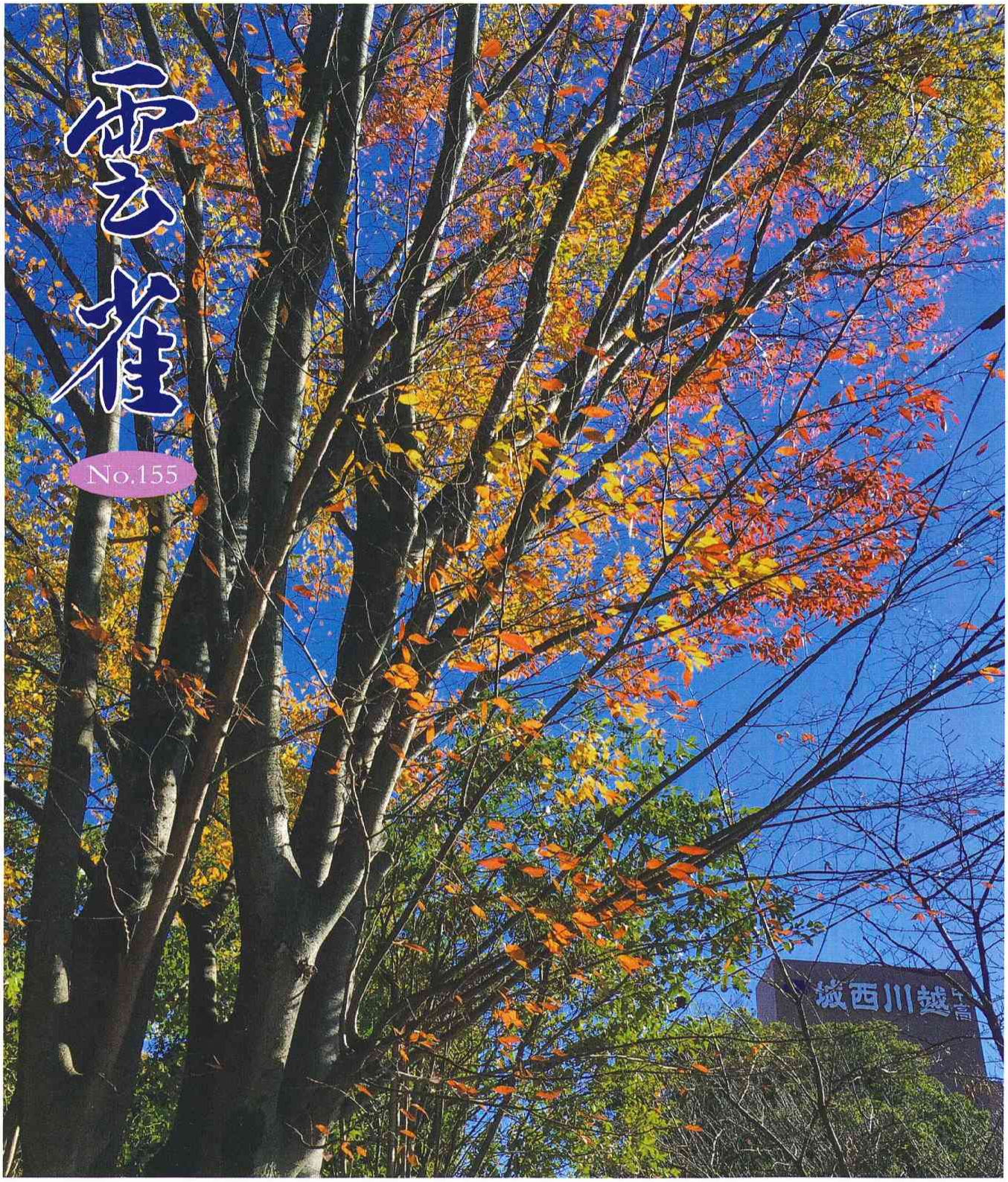


蛙聲

教員が好んで引用する英語圏のことわざに、「意志あるところに道あり」というものがある。かたや「道は歩むことによってつくられる」（カフカ）という言葉もある。前者は、人は確固たる夢や目的をもって自ら道を切り拓いていくべしというのが主旨であるが、後者はどちらかというと、何気なく行っていたことがいつの間にか道となっていたというような、個人の意志よりも偶然や出会いを肯定し、許容するような趣がある。▼校内では多くの学年で進路選択の時期に入り、教員はついつい生徒たちに将来どの道に行きたいかと迫りがちである。もちろん進路は早めに決めるに越したことはないし、その方がよりリスクの少ない進路選択になるかも知れない。しかし、自分が歩むと決めていた道から多少逸れてしまっても、腐らずに歩みを続け、よい人との出会いや好機に恵まれ、振り返ればなかなか悪くない道になっていた。そんなことは誰しも経験のあることではないだろうか。主体的に歩みを続ければ失敗で道を外れても、気づけば立派な道ができていることもあるだろう。▼偶然や失敗から大きく歩みを変え、未知のものに出会う喜びもある。そんなことを忘れずに生徒たちに接していきたいものだ。

2018年度 入試の概要

来年度入試を取り巻く環境

本校では高校3年在籍者数の約99%にあたる243名がセンター試験出願を無事終えた。推薦入試などで早くも合格通知を勝ち取ったほんの一握りの生徒を除けば、ほとんどの3年生にとっていよいよ本格的な受験のシーズンが始まったことになる。

2018年度入試の動向を見ると、全体としては昨年度入試と同様に文高理低という状況が続きそうである。文系の人気が高いのは、景気が回復傾向にあり、大学生の就職状況も改善されていることが大きな要因の1つになっている。

文系のなかでも人気の高さが目立つのは、経済・経営・商学系である。この系統の人気は経済的な環境に影響されやすく、いまの景気回復を反映して志願者が増えている。また、文系のなかでは比較的理系寄りの系統でもあり、理系か文系かで迷っている受験生がこの系統を選ぶ傾向もあるようである。

グローバル系も人気の高さが続いていたが、今年は人気がやや沈静化している。もともと募集人員がそれほど多くないということもあり、人気が上がると難化が目立っていたが、その反動が少しずつ出てきているようである。

一方、理系においては、ここ数年の人気低下が2018年度入試においても続きそうである。理系人気低下の最大の要因は科目負担の大きさからくるハードルの高さである。2015年度入試以降理系ではセンター試験が専門科目2科目となり、3年生の12月中には対象となる2科目の学習をひととおり完成させねばならず、これが受験生にとってはかなりの重荷となっている。また、前述したように大学生の就職状況が改善され、理系に進まなくても文系で就職があると思われていることも人気低下を招いている。なかでもメディカル系の医学部・歯学部・薬学部の志願者は減少しそうである。

センター試験

2018年1月13・14日に実施される大学入試センター試験の出願総数は、528,323人となり、前年度と比較すると12,036人減少した。内訳を見ると、高等学校等卒業見込者（現役生）が438,250人（14,711人減）、高等学校卒業者等（既卒生）が90,073人（2,675人増）となっており、既卒生は前年同日時点より増加した。来春の18歳人口は1万8千人減少するものの、既卒生の増加もあり、志願者数は最終的には前年並みか、やや減の間におさまる見込みである。

国公立大入試の主なポイント

国立大では学部組織の見直しが計画されており、ここ2年で学部の再編・新設が相次いだ。特に「教育学部の縮小」「地域・国際系学部の新設」「文系学部から理系学部への定員シフト」といった動きが目立った。2018年度はその動きが沈静化しつつあるが、公立大を含めて引き続き学部・学科の再編や新設を行う大学が目立つ。身近なところでは、首都大学東京が、都市教養学部について名称を法学部・理学部といったオーソドックスなものに戻して改組する。これによって来年度入試では志願者が増える傾向が出てきている。また、埼玉大では、複数学部で定員の変更が予定されている。なお、国立大では、一般入試に多面的・総合的評価を行うために面接や小論文を導入する動きが加速しているが、この小論文を課す動きで注目すべき点は、埼玉大（工-前期）での新たな小論文の導入であろう。埼玉大はもともと一部の学科で小論文を課していたが、2018年度からは全学科に拡大する。

私立大入試の主なポイント

私立大の一般選抜試験は、文系ではかなり厳しくなりそうだ。前年度も厳しい入試で『総難化』といえる状況であったが、2018年度は私立大文系の人気がさらにアップしている。一時期の極端な現役至上主義がやや薄まり、優秀な浪人生も残っていることから、全体としては前年度以上に難化することが予想される。一方、理系では易化が続いている。ただし、今後東京理科大が経営学部を除く各学部の一般選抜B方式の募集人員を20～30%程度減らし、そのぶんを新たに始める公募推薦に振り分ける。このため、東京理科大自体はもちろん、芝浦工業大や東京電機大など、志願者が流れてくるとみられる大学も難化する可能性が高い。系統別に見ると、近年続く医療系の新設のなかでも、「看護」系の新設が顕著であるが、それに加えて心理学系の学部・学科の新設が目立つ。背景には国家資格「公認心理士」の創設があるようだ。

なお、国が都市部を中心とした大規模私立大の定員超過を抑制しようとする方針のもと、私立大では定員超過の状況に応じて補助金が不交付になるルールがある。そのため前年度入試では定員超過率を下げるべく合格者を絞り込む動きが見られたが、この補助金不交付ルールはさらに厳しくなる。受験生にとっては何とも厳しい現状であるが、併願校数を増やす・歩留まり率の低さから合格者数をそれほど絞り込まないであろうセンター方式・全学部入試などの方式を多めに受験するなど、自分が志望する大学の定員充足率を調べながら、アラカルトな受験の仕方で対応することも一考であろう。

大学入試改革を目前にひかえて

2020年度入試（現中学3年生が対象）から、共通テストの導入を含めて大学入試の様相は大きく変わることになる。新しい大学入試では、従来の「知識・技能」に加えて「思考力・判断力・表現力」を重視すること、また、共通テストでは国語と数学で記述式問題を出題すること、英語では「読む」「聞く」に「書く」「話す」を加えた4技能を評価するために、民間の英語資格・検定試験を活用することなどが大きな特色になっている。では、そうした新しい大学入試の考え方や方式が前倒しされるかたちで2018年度入試に影響を及ぼすことはないのだろうか。結論的には、少なくとも一般入試においては直接的には影響はほとんどないものと考えられる。ただし、一般入試では英語の外部試験利用が拡大してゆく傾向は否めない。すでに私立大学では導入が進み、国公立大でも導入し始めているが、2018年度はそれがさらに広がりそうである。各大学における英語外部試験導入に関しては、常にアンテナを張り巡らせて情報収集に努めるべきであろう。

受験生へ向けて

入試を直前に控えたこの時期、とかく「あれもこれも」と手を出してしまうと気持ちは焦るばかりで逆効果である。むやみに難問に取り組んだ挙句、自信を喪失してしまうということにもなりかねない。直前だからこそ、今までやってきたことのおさらいと基本のチェックに重点を置いてみよう。

この時期なによりも大切なことは、自分の力を信じることである。受験生の力は勉強をやめるその日まで、すなわち入試当日、試験開始時間直前まで伸び続けるものなのだ。最後まで決してあきらめることなく、合格を目指して頑張ってほしい。

（進路指導部）

カナダ短期留学報告

1年D組
池原　隼人

海外留学を通して

今回のカナダ短期留学は私にとって初めての海外経験でした。そのため、行きの飛行機では一睡もできないくらい興奮していました。

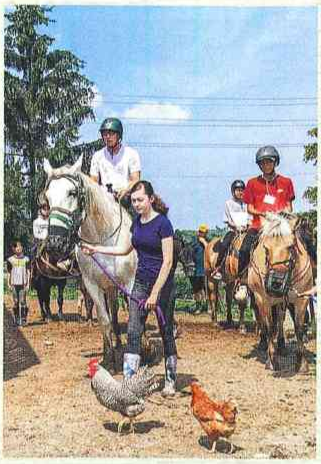
初日の午後はロンドン市内を観光しました。街中にリスがいたり、スーパーで売っている一つ一つの品物がとても大きかったりと、びっくりすることばかりでした。3日目には初めて乗馬体験をしました。乗り心地はとても良く、高くなった視線の先に広がる緑豊かな大自然はとても感動的でした。

学校では、ネイサン先生の英語の授業がとても楽しかったです。教室中に英語が飛び交う体験というのは初めてだったためにとても刺激的で、ネイサン先生の授業をまた受けたいと強く思いました。また、一緒にいたアシスタントの学生さんたちとも、とても良い思い出を作ることができました。

11日目の夜のさよならパーティーは、私の感謝の気持ちをホストファミリーの方に伝える最後の機会だったため、何としても成功させなければならないイベントでした。そこで私はペアを組んだ友達と、筆で自分とファミリーの名前を書いた半紙をプレゼントし、パーティーは大成功に終わりました。あの時のファミリーの笑顔は今でも忘れることはできません。

お別れの朝、私達は6時から庭の掃除をしました。毎日のように使わせてもらったプールを綺麗にしたかったし、感謝の気持ちを伝えたかったからです。朝食の後、私達は前の晩に書いた感謝の手紙と折鶴を贈りました。ファミリーと別れるのはとてもつらく悲しいことでしたが、ホストマザーのバルさんが「カナダに来ることがあったらうちに泊まっていいから連絡してね」と言ってくれたことで、また必ずカナダに戻って来ようと思うことができました。

私はこの留学でコミュニケーションの大切さを学びました。これを必ず今後に生かしていきます。



1年H組
中村　拓人

初めての海外

13時間飛行機に乗り到着した空港で、日本人がいないということに気づいた私は、ここでは自分の常識は通用しないのだという、よい緊張感を持つことができました。

ホストファミリーとは、初対面の時に緊張してあまり会話が弾みませんでしたが、時間をかけて優しく私たちに接してくれたおかげで徐々に打ち解け、たくさんの話ができるようになりました。その中でも、カナダのメープルと日本の紅葉から四季について話したのはとても印象深いものでした。

また、学校の授業では、“th”の発音や“l”と“r”の発音の違いなど、ネイティブの発音に触れ、「生きた英語」に心を踊らされました。さらに、アクティビティーはどれも初めての体験だったため、とても楽しかったです。幅の広い大きな川を、カヌーに乗ってゆったりと流れるのは最高の気分でした。

日本ではできない体験を数多くして、日本との違いをさまざまな場面で感じましたが、私が最も驚いたのは日が沈むのが遅いことです。私の中では5時半が昼夜の境目でしたが、カナダでは5時半でも真昼のように明るく、8時頃にようやく日没ということも珍しくありませんでした。このような一つ一つの出来事が、私にとっては新鮮で、今後の糧とすべき貴重なものになりました。

出発前、私は2週間をとても長く感じていましたが、ホームステイを終えてみると濃密であっという間の時間でした。送り出してくれた両親、引率してくださった校長先生をはじめとする先生方に心から感謝したいと思います。

2020年には東京オリンピックが開催され、たくさんの外国人が日本に来ると思います。その時までに一生懸命英語を勉強して身につけ、カナダのホストファミリーのように温かい対応のできる人間に成長したいと思います。

高校一年 奨学生決定

二学期の成績により、高校一年の奨学生が次の通り決定した。

一年A組　藤井　駿
（川越市立川越第一中）

一年C組　墨谷　英志
（城西川越中）

一年F組　石井　裕人
（北本市立宮内中）

一年H組　古川　翔也
（桶川市立桶川西中）

学園リポート

文化祭を終えて

2年E組
前田　大輝

今年度の文化祭実行委員長を務めました前田大輝です。今年度も文化祭へのご協力、誠にありがとうございました。

前日の準備から片付けまで特に大きな事故もなく、また天候にも恵まれ、無事に文化祭を終えることができました。部活動やクラス企画の準備と忙しい中で活動してくれた実行委員の皆さん、本当にありがとうございました。また、先生方のご協力もあり、とてもスムーズに準備や片付け等を進めることができました。

そしてクラス企画や各班での仕事等で連日夜遅くまで学校に残って活動した生徒の皆さん本当にお疲れ様でした。この文化祭が各クラス、生徒一人ひとりにとって少しでも良いものであったなら幸いです。これまでご協力くださいまして、本当にありがとうございました。

作文表彰者

平成29年度 川越市 少年の主張作文 中学生の部 入選

2年1組
歸山　大朗

平成29年度 中学生の「税についての作文」入賞

3年1組
小笠原　勇斗

平成29年度 中学生の「税についての作文」 埼玉県飯能県税事務所長賞

1年2組
青野　正明

平成29年度 税に関する高校生の作文 入賞

2年E組
根岸　弘明

スピーチコンテスト

高校生の部　優勝
英語を話すことができることの価値とは

2年D組
松本　友祈

城西川越高校と城西大学のスピーチコンテストを通して、私自身の英語に対する見方は変化した。

大学のコンテストの参加者の多くは「日本人の多くが英語を話せた方が良い」と主張していた。以前の私ならそう思うが、今の私は違う。なぜなら、英語は単なる自己表現をする道具にすぎないと考えるようになったからである。

勿論、話せる方が良いが、それだけなら、AIや英語を母語としている人の方が勝っている。私たちに求められるのは、それ以前の個々の考えである。それを英語で世界中の人々に伝えることが大事で、それにより、現代社会の問題に対する見方なども変わってくるのではないか。

また、単に英語を学ぶのではなく、何かを学んだ上で自分の考えを持ち、英語で表現するという意識を持つことで、今までより容易に外国人に自己表現ができるようになると思う。

中学生の部　優勝
私と数学

3年1組
東海林　奨

私は今回、スピーチコンテストで優勝することができましたが、ここに至るまでに様々な苦労を経験しました。

まずテーマを決めようと、これまでの人生を振り返ったのですが、好きな数学について話そうと決心するまでにはかなりの時間を要しました。さらに、数学への情熱の高まりを言葉にすると、自然と難しい表現になってしまい、皆さんに理解してもらえるかとても心配でした。そこで、私は数学への情熱によって自分がどう変化したのかを伝えようと考え、多くの時間をかけて先生に話し方を指導していただきました。また、友人はスピーチに使うパネルの作成を手伝ってくれたり、壇上でサポートをしてくれたりもしました。

このように多くの人の協力を得てスピーチを行うことができ、本当に感謝しかありません。この経験を糧に、今後さらに必要となるスピーチの技術を高めていきます。

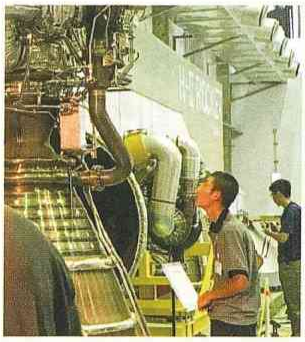
JAXAで「一日宇宙記者」体験！

刺激的な四日間

1年D組
國政　和真

私は八月十日から十三日までの四日間、JAXA主催の「一日宇宙記者」に参加しました。父から聞いたこの体験プログラムの存在が、以前からロケット開発に興味があり、ロケットの打ち上げを見たいと思っていた私を突き動かしてくれたのです。

プログラムのために種子島に行った私は、一緒に参加した人たちの意識の高さにまず驚きました。自分の学校に新しく天文部を作ろうとしている人や、大阪在住ながらも東京で宇宙関連の展覧会が開かれるたびに足を運んでいる人など、様々な人とプログラムを行うと、自分に必要なことやもっと努力すべきこと、自分の長所など、多くのことを発見することができました。



天候の関係で、実際にロケットの打ち上げを見ることは叶いませんでしたが、とても刺激的で、自分を磨く上で非常に良い経験をすることができたと思います。

上野校外授業

1年2組
中村　匠吾

私は校外授業当日、最も不安だった集合がきちんとでき、安心しました。

国立科学博物館では様々な体験をするコーナーもありましたが、自分たちが調べていた生物の多様性のコーナーが特に気に入りました。事前学習をしたことで、より詳しいところまで見ることができとても良かったです。

東京国立博物館には初めて行きましたが、想像した以上に国宝の数が多く驚きました。とても色鮮やかな絵や教科書に載っている物もたくさんあったので、見ていて飽きませんでした。たくさんの国宝に触れられてとても良い経験になりました。

家に帰ってから家族と見学の話をして盛り上がりました。母もこれらの博物館に行ったことがあったようで、たくさんの話をしました。本当に得るものの多い校外授業でした。

1年3組
渡邊　一弘

十一月二日の校外授業では、国立科学博物館、上野動物園、東京国立博物館を見学しました。初めての現地集合だったため、無事に到着できるか心配でしたが、時間に余裕を持って計画を立てたので問題ありませんでした。これを来年の校外授業、再来年の修学旅行にも生かしたいと思います。

国立科学博物館では恐竜が絶滅した理由などを聞くことができたのですが、私は説明する係員の“English OK”と書かれたバッジに注目しました。おそらく「外国の人にも説明できます」という意味だと思います。科学博物館という英語とは関係がなさそうな場所で、英語の勉強は大切なのだということを思い知らされました。

私は校外授業で「余裕を持った計画」と「英語の勉強」の重要性に気づくことができました。

鎌倉校外授業

2年1組
永田　和志

鎌倉に行って痛感したことは、大仏や寺の迫力が想像以上だったということです。高徳院の大仏では、頭に工夫が施してあり、そして中にはとても大きな空洞がありました。これを見て、高徳院の大仏がどれだけ大きいか、改めて感じられました。

鶴岡八幡宮では、たくさんの外国人を見かけました。また建物がとても魅力的であり、様々なデザインがありました。インターネットで事前に調べたものより迫力がありました。

また、外国の方々へのインタビューを通して様々なことを学ぶことができました。インタビューが今回の校外授業の中で一番の心配でしたが、外国の方々はとても優しく応えてくれたので安心しました。さらに英語に対する意識についても教えてくれました。この校外授業を通して、様々なことを学ぶことができました。

2年3組
福山　竜弘

今回、鶴岡八幡宮・鎌倉大仏・新江ノ島水族館の三か所を見に行きました。初めに高徳院に行き、鎌倉大仏を見ました。写真で見たよりも大きく感じ、また近くにある線香は身体にあてるとよいと聞きました。とても良い経験ができました。大仏の中に入ると、大仏の歴史などについての説明があり、貴重な体験をすることができました。将来、自分が先生になったとき、この体験、大仏についてのことを教えてあげたいと思います。途中、オーストラリア人のALFさんと楽しく会話をでき、日本のことを知ってもらうことができました。

次に、新江ノ島水族館に行きました。たくさんのきれいな魚を見ることができました。特に、僕が気に入ったのはクラゲです。そして、ドリーに似た色の魚です。貴重な魚の写真を撮ることができました。

最後に鶴岡八幡宮に行きました。太鼓橋でジミー先生と写真を撮った後、皆でおみくじを引きました。桜門に書いてある「八」の字と、一八二八年に徳川家斉が再建した本宮の長い長い階段が特に心に残っています。

日本史が好きな僕としては、今回の校外授業は最も心に残る体験になりました。来年の修学旅行の予行としても申し分ありません。また一歩、日本の歴史に踏み込むことができ、とても幸せです。

修学旅行

3年1組
井上　匠規

最終日の嵐山散策では、京都ならではの自然と街並みを堪能することができた。何百年もの間残ってきた日本の建造物には日本人のみならず、あらゆる人の心に訴えかける何かがある。だからこそ、今もこうしてたくさんの人々がそこを訪れるのである。

三日目の班別行動は、時間どおりに行動できなかったところもあったが、京都の素晴らしい景観、建造物をしっかりと目に焼き付けることができ、とても充実していた。今度は時間に縛られることなく、思う存分京都の街を巡ってみたいと強く感じた。

修学旅行が終わってから落ち着いて四日間を振り返ってみると、これまで私が勉強や部活動を通して感じていたものとはまったく別の意味を持った有意義な時間だったことを実感できた。是非、年を重ねて再び京都を訪れてみたい。きっと自分の中でまた新たに感じられることがあるだろう。京都は、今までの自分を顧みる機会を与えてくれた。この貴重な経験を胸に、これから未来の自分を描いて、前に進んでいこうと思う。

3年1組
塩川　修平

私はこの修学旅行で、新たな世界観を持つことができたと同時に、教訓を得ることができた。

東大寺や法隆寺など、教科書でしか見たことのないような寺院やそこに収められている国宝などを実際に目にするのは興奮した。また、薬師寺で聞いた法話や、妙心寺退蔵院での座禅なども自分にとってセンセーショナルな出来事であった。自分が知らなかったことを知るというのは、自分の視野を広げることにつながるのだ。

このように自分を成長させてくれる出来事の一方で、度重なるミスもあった。三日目の自由行動で宿舎に戻る際に、バスが到着予定時間よりも大幅に遅れてしまい、私たちの班は定時に間に合わなかった。また、宿舎を後にする際に忘れ物をして添乗員さんに取りに行ってもらうという失態まで犯してしまった。どちらも自分にとっては苦い思い出となったが、この失敗によって教訓を得ることもできた。

そして、旅行を終えて帰宅してから、母に「修学旅行に行かせてくれてありがとう」と感謝を述べることができたのは本当に良かったと思う。

修学旅行は私が想像していたものとは異なり、学生たちに偏りのない広大な視野を持たせてくれるものであった。また、多くの人の支えによって成り立っているものでもあった。この修学旅行から学ぶことはとても大きい。だからこそ、私はそれを一つずつ噛みしめていきたいと思う。

和太鼓『欅』

和太鼓郷土芸能祭最優秀賞

第十四回郷土芸能祭埼玉県大会を終えて

和太鼓欅 長（おさ） 麻生翔路

十一月八日に行われた第十四回郷土芸能祭埼玉県大会にて、最優秀賞並びに県知事賞をいただき、平成三十年八月に行われる全国高等学校総合文化祭長野大会への出場権を得ることができました。これもひとえに皆様の支えがあってこそのことであり、心から感謝を申し上げます。

顧問の先生方、練習場所を提供してくださる先生方、車出しなどのサポートをしてくださる父母の皆様、様々なイベントで演奏させてくださる地域の皆様、そして早いうちから私たちに練習する機会を作ってくださった現高校三年生十一代目八名の先輩方、本当にありがとうございました。

今後も皆様への感謝を忘れることなく、少しでも恩返しができるよう心掛けて、地域の公演やボランティア活動などを大切にしていきたいと思います。

これからも和太鼓欅をよろしくお願いします。

軟式野球同好会

関東大会出場

秋季大会を振り返って

主将　三田慎太朗

私たちは秋季関東高等学校軟式野球大会埼玉県予選で準優勝し、宇都宮で行われた関東大会に出場しました。

県予選では、初戦大宮聾学校、浦和ルーテル学院連合チームに二対0、二回戦慶応志木高校に四対二、三回戦伊奈学園に三対二で勝利し、決勝戦まで進みました。正智深谷高校には0対四で敗れましたが、関東大会への出場権を得ることができました。

関東大会では初戦で神奈川・桐蔭学園に二対六で敗退してしまいましたが、強豪校との対戦により多くのものを得ることができました。また、県予選、関東大会を通じて私たちのすべき野球を見つけ、実践することができたので一歩前進できたのではないかと思います。

この経験を糧に、冬の練習でさらに鍛え、春季大会ではもう一度関東大会に出場し、勝利したいと思います。

『円周率とコンピュータ』

円周と直径の比の値を円周率といい、その値はおよそ3.14である。実際には無限に数が続き、その並び方はランダム、すなわち規則性がないと考えられている。円周率についてまだ詳しく分かっていなかった時代、多くの人々がその規則性を見出そうと血と汗を流した。なかには円周率の計算に生涯を捧げた者もいるという。究極の対称性をもつ円という図形にはそれほどの神秘的な魅力が内在しているのだろうと思う。

ところで私が小学生のとき、円周率を計算しようとしても決して終わることはなく、毎日コンピュータがそのための計算をしているのだと学校で習った。その話を聞いて私が思ったことは、円周率を計算するために具体的にどのような計算をしているのかということだ。適当な円筒をこしらえてメジャーで円周と直径を測り、その比の値を求めたところで測定の誤差が必ず起こるので、その結果はまるであてにならない。円周率の厳密な値をどうすれば計算できるのかは、当時の私には皆目見当もつかない問題であった。そして月日は流れ、浪人時代の予備校の授業でそれは明らかになった。円周率を小数で表示しようとすると法則性は見つからないのだが、分数の和で表そうとすると法則が見られるのだ。ニュートンと同時期に微分積分を発見したドイツの数学者ライプニッツの名を冠する有名な法則がある。それは、1/1 - 1/3 + 1/5 - 1/7 + … というように、奇数の逆数を交互に足し引きする計算を十分に続け、それを4倍するとほぼ円周率になっているというものだ。足し引きする逆奇数の量を増やせば増やすほど、その結果は、円周率に限りなく近づくことが論理的に証明されている。その証明はかなり難解だと思われるかもしれないが、なんと、毎年のように大学入試で積分法の応用として出題されており、実は高校3年生でも十分に理解ができる事実なのだ。過去に多くの学者が円周率を計算しようと心身を削っていったが、現在我々は微分積分というニュートンとライプニッツが遺していった無限を簡単に扱えるツールを用いて、当たり前のように円周率が計算できる時代を生きているのである。

ライプニッツの法則は簡明で円が潜在的にもつ規則正しさの一面を垣間見ることができる素晴らしい公式だと私は思うが、実は円周率の計算をするには非実用的である。コンピュータを用いて、1000個の逆奇数の足し引きを計算させても3.140592…である。100000個の逆奇数の足し引きで3.141582…となり、ようやく小数第4位までが正しく計算されていることになる。この法則で例えば円周率の小数第100位までを計算させようなどとすれば、コンピュータを持ってしても相当な時間を費やすことだろう。しかし、計算すべき法則は分かっているのだから、手計算でも途轍もない時間をかければ小数第何位でも理論上いつかは必ず計算できることは揺るぎない事実なのである。そういうところに数学という学問の深淵さを私は感じる。ところで、円周率を効率よく計算する方法は数多く見つかっている。マチンの公式というものが有名だが、インドの天才数学者ラマヌジャンが発見した公式は人智を超える領域に思えるので、ぜひインターネットで調べてみてほしい。また、コンピュータを用いて発見されたBBP公式は、円周率に対する新たな見方をもたらした興味深い例である。

円周率の計算法をなんとなく疑問に思っていた小学生の頃を思うと、スマートフォンを用いれば誰にでも何でも調べられる現在のインターネット社会は、まさに知識の宝庫で、勉強をする機会が常に連続的に与えられている良い世の中に思えてしまう。今を生きる子どもたちはそういう意味では恵まれているといえるが、その恩恵を受けている者は果たしてどれだけいるのだろうか。

数学科　**西野明穂**

第60回埼玉県高校美術展

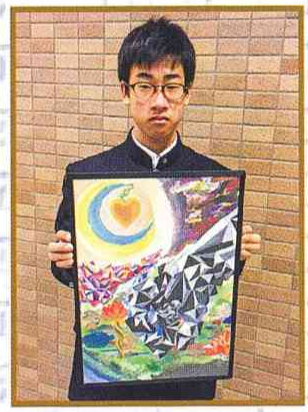
▶《優秀賞》
第61回埼玉県高校美術展ポスター採用作品
1年H組　柳澤　樹

▶《奨励賞》
2年A組　神谷利哉

第45回埼玉県私学文化祭

▶《ポスター原画コンクール　最優秀賞》
2年F組　清藤　光

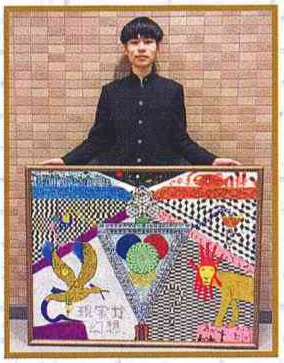
▶《テーマコンクール　最優秀賞》
3年H組　木村洸之



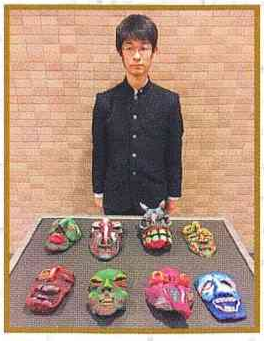
▶《ポスター原画コンクール　優秀賞》
1年H組　柳澤　樹

◀《埼玉県教育委員会教育委員長賞》
3年H組　門脇一史

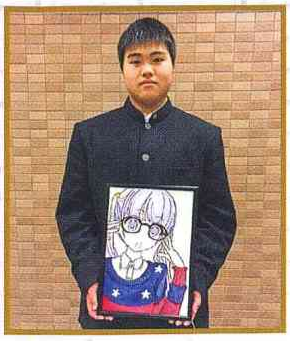
◀《埼玉県芸術文化祭実行委員会会長賞》
3年H組　北村徳郎



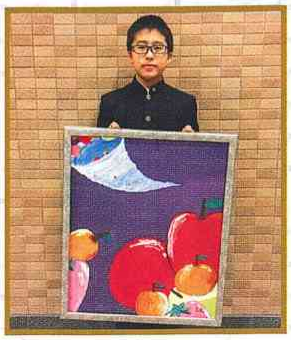
◀《優秀賞》
2年F組　臼田祐将



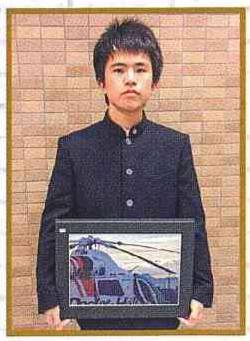
▲《佳作》
2年D組　江口耀司



▲《佳作》
1年B組　澤田欣吾



▲《佳作》
2年3組　酒本真学



▲《佳作》
2年E組　五十嵐直

中・高問題解説学習会　実施！

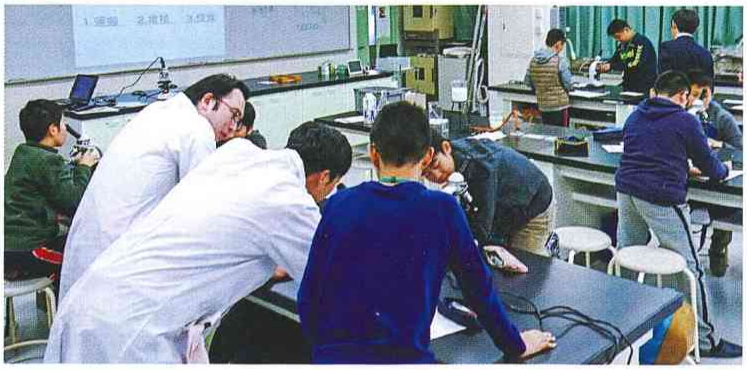
小学生、中学生を対象とした本校の入試問題解説学習会が、高校は県民の日の十一月十四日(火)、中学校は勤労感謝の日の十一月二十三日（木）に行われた。

高校の学習会（英語、数学）は、例年通りオープンスクールの一環として入試相談やクラブ活動体験と合わせて行われた。

一方、中学校の学習会（国語、算数、理科、社会）は、特別選抜、総合一貫それぞれの入試対策授業が午前、午後に行われた。

すでに過去問を解いたことがあるという参加者も多く、受験への意識の高さがうかがえた。ここで直接過去問の解説を聞いたり、実際の入試問題に類似した問題を解いたりしたことで、一層受験勉強への熱を高めてくれることを願うばかりである。

また、いずれの日も単に授業を受けるだけでなく、昼休みには食堂を利用して食事をするなど、参加者には城西川越における学校生活の一端を知る良い機会として捉えてもらえたのではないか。



今後の予定

12月21日(木)　冬期講習会（～26日(火)）
1月4日(木)～5日(金)　高3センター トレーニング会
9日(火)　三学期始業式
高3単位認定試験
10日(水)　午前　中学第一回
総合一貫入学試験
午後　中学第一回
特別選抜入学試験
11日(木)　午前　中学第二回
特別選抜入学試験
午後　中学第二回
総合一貫入学試験
13日(土)　午前　中学第三回
総合一貫入学試験
13日(土)～14日(日)　高3センター試験（高1・高2センター同日体験）
15日(月)　高3センター試験 自己採点
19日(金)　英語検定
20日(土)　中学3年1組ターム留学（～2月26日(月)）
22日(月)　高校入学試験
23日(火)　高校入学試験
29日(月)　高1スキー教室
高2修学旅行（高1・高2ともに～2月1日(木)）
30日(火)　中2スキー教室（～2月1日(木)）
2月5日(月)　午前　中学第四回
総合一貫入学試験
2月7日(水)～8日(木)　高1・高2校外模試（高1は8日のみ）
8日(木)　中1・中2
学力推移調査
9日(金)　漢字検定
11日(日)・(祝)　高校入学試験
中学入学予定者登校
19日(月)　中学3年2・3組
イングリッシュウィーク（～23日(金)）
24日(土)　中学入学予定者登校
3月3日(土)　期末試験（～7日(水)　ただし4日(日)は除く）
9日(金)　高校卒業式
10日(土)～12日(月)　答案返却授業
11日(日)　中学入学予定者登校
高校入学予定者
クラス編成試験
14日(水)　期末特別授業（～17日(土)）
16日(金)　高1・高2課題審査
19日(月)　中学卒業式
21日(水)・(祝)　城西ワクワク体験教室
23日(金)　三学期終業式

冬期休暇中の事務取扱い

冬期休暇中の事務取扱いは次の通りとなる。

・取扱日　12月21日(木)～28日(木)、1月4日(木)～6日(土)
・取扱時間　午前9時00分～午後4時00分

尚、この期間中に限り、学割・証明書等の発行は当日行う予定である。

冬期休暇中の図書館開館日程

冬期休暇中の図書館開館日程は次の通りとなる。

・開館日　12月21日(木)～26日(火)
※日曜日、祝日も開館
・開館時間　午前8時30分～午後5時30分

冬期講習会やクラブ活動の前後など、有効に活用してほしい。

城西川越
広報「ひばり」第一五五号
編集・発行
城西川越広報編集委員会
〒三五〇―〇八二二
埼玉県川越市山田東町一〇四二
☎〇四九（二二四）五六六五